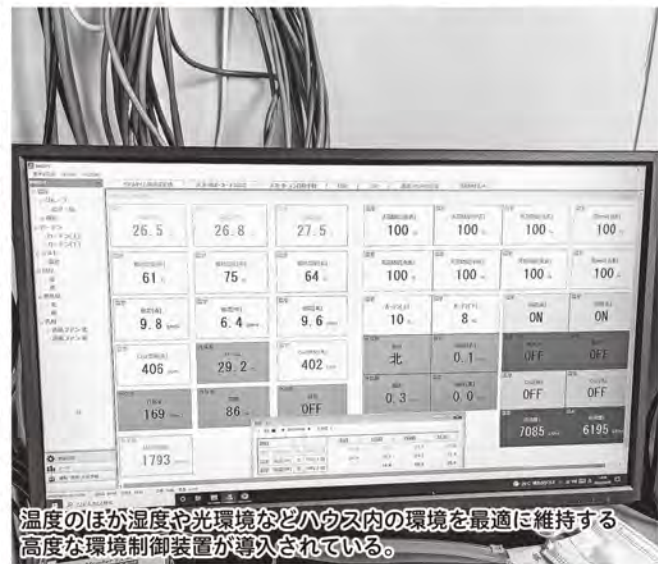




下大町にある施設園芸団地。高軒高の連棟ハウスは遠くからも目に入る。



鶴池さんが栽培するハウスでは一般的な土耕栽培ではなく溶液栽培が採用され、同じ団地内でも生産者によって栽培方法が大きく異なる。



温度のほか湿度や光環境などハウス内の環境を最適に維持する高度な環境制御装置が導入されている。

取材協力



ふか がわ あき ひろ
深川 覚博さん

昨年まで企業に勤めていたが、今年1月からきゅうり農家に転身。

現在は、きゅうり栽培の知識や技術を身につけるため梶原雅之さんのもとで研修中。

来年1月に施設園芸団地へ入植予定。

大規模な施設園芸団地と最新技術のスマート農業により、現在大町町の農業が大きく進歩しています。

未来の地域農業を支える拠点に

これにより、ハウス内の環境がデータで「見える化」され、これまで求められていた「経験と勘」という考えから、データに基づいた栽培管理により、高収量・高品質を維持することができるようになりました。

また、こういった環境制御装置の導入により、作業の単純化や軽労化につながり、農家の人手不足や重労働、熟練者のなければできない作業といった現場の課題を解決する可能性を秘めています。このように作物だけでなく生産者にとっても好循環を生み出すことが期待されます。

“ 努力した分、結果が見えるのが農業の魅力 ”

自分でなにかを成し遂げたいという思いがあり、知人から話を聞き「農業で稼ぐ」という選択肢を知りました。

自分自身の努力と判断で、自然を相手に生産活動を行う農業は、知識や技術など非常に覚えることが多いです。

それでも農業未経験でも関係なく、努力した分だけ収量として結果が見えることが何よりも農業の魅力だと思います。

たくさんの応募お待ちしております。

きゅうりがうまい / フォトコンテスト開催中

思わずきゅうりを食べたくなる美味しそうな写真や楽しい写真を募集しています。

インスタグラムの大町町公式アカウント (@omachitown_official) をフォローして「#大町町の特産品」とハッシュタグをつけて投稿してください。

応募期間 7月10日(日)～7月31日(日)

詳しくは 企画政策課 広報統計係 ☎ 82-3112



優秀賞の10名様には、施設園芸団地で採れた新鮮きゅうりを進呈します。

この施設園芸団地が未来の地域農業を支える拠点になることで、農業が若者にとって夢をもって取り組める職業分野となり、大町町の農業がさらに盛り上がる日も近いのではないのでしょうか。